

ととした  
需要低迷にて推移して  
化を目的に中期から神  
商非鉄の一部の商権を  
新会社に移管する予定。

987億円、JBICが  
9分)を貸し付けるプロ  
ジェクトファイナンス  
契約を結んだと発表し  
た。国際協調融資の一  
環で、協調融資総額は  
25億ドル。

力銅鉱山の第2期開発  
(QB2)プロジェクトを  
ダ輸出開発公社、ド  
イツ復興金融公庫、韓  
大企業が契約を結ん  
だ。ケプラタ・プラン

ス・ジーバンク、モント  
リオール銀行が協調融  
資に参加する。

上ノーフ・鋼  
スジーバンク、モント  
リオール銀行が協調融  
資に参加する。

式典後、懇親会で

線材のJIS認証が維  
持されたと発表した。

月を振り返  
し、19まで

た。この時  
は過ぎを直  
接とともに  
は示してお

も売られ過ぎ感が浮上  
してきている。

物セゾルメントは、小  
幅続落した。ノルウェ  
ーのアルミ生産大手ノ  
ルスク・ハイドロがブ  
ラジルで運営する、ア  
ルノルテ・アルミニナ製  
錬所の生産増加見通し  
を下ってきた

た。加工性にも優れた  
化製品やコンピュータ  
ーの電源端子、家電製  
品の放熱用途などでの  
採用を見込んでいた。  
QM et 300は導

電率が81% IACSで  
0.2%耐力が500  
kgf。同社が世界最大  
手のベリリウム銅に匹  
敵する成形性と耐応力  
緩和特性があるとして  
いる。

高電導合金を発売  
米マテリオン  
米銅合金大手のマテ  
リオンは30日、高い導  
電性と強度を併せ持  
ち、加工性にも優れた  
化製品やコンピュータ  
ーの電源端子、家電製  
品の放熱用途などでの  
採用を見込んでいた。  
QM et 300は導

電率が81% IACSで  
0.2%耐力が500  
kgf。同社が世界最大  
手のベリリウム銅に匹  
敵する成形性と耐応力  
緩和特性があるとして  
いる。

## ダイヘン・権田金属受賞、表彰式開く



受賞者と記念撮影

出力400  
ワットの3Dプリ  
ントの3Dプリ  
ントを

用いた造形  
技術を確立  
した。

権田金属

工業は「9

00年」の歴史があり、  
長年の尽力のたまもの  
だと思ふ」と述べた。

式典後、懇親会で

は、権田金属工業の権

田源太郎社長が「モー

ターは産業の米であ

り、日本はモーターの

競争力がある。品質や

納期は厳しいが、ユ

ニーザー満足してもらえ

るようがんばりたい」と喜びの言葉を述べた。ダイヘンの蓑毛正一郎常務は、「変圧器で

も銅にはなじみがあ

る。3D技術を応用し

て銅需要に少しでも貢

献できればと思う」と話した。

リアル社長)は「常日頃の努力、精進に深く敬意を表し、今後とも銅の用途開発や需要促進に活躍していただきたい」とあいさつ。表彰状とリングをかたどった銅製トロフィーを手渡した。来賓の木原栄治・経済産業省金属技術室長は「とともに100年の歴史があり、長年の尽力のたまものだと思ふ」と述べた。

式典後、懇親会で

は、権田金属工業の権

田源太郎社長が「モー

ターは産業の米であ

り、日本はモーターの

競争力がある。品質や

納期は厳しいが、ユ

ニーザー満足してもらえ

るようがんばりたい」と喜びの言葉を述べた。ダイヘンの蓑毛正一郎常務は、「変圧器で

も銅にはなじみがあ

る。3D技術を応用し

て銅需要に少しでも貢

献できればと思う」と話した。

## 設備投資42億円に増

### タツタ電線、19年度計画

タツタ電線は2011年9年度の設備投資につけて、全社留保枠支出を含まない金額で、前年を上回る42億円に拡大させることを明らかにした。18年度の設備投資実績は35億3,200万円を超過する見込みで、主な投資としては、電線各機能強化で6

億円、フィルム高機能化、基盤強化対応に10億円、木津川地区環境整備に4億円、新規事業開発(成長追求事業)に3億円、電子材料周辺分野への投資枠として10億円をそれぞれ見込み。同社は収益基盤の強化を図る一方、新規成長事業への投資も進めの意向を示した。

タツタ電線は2011年9年度の設備投資について、全社留保枠支出を含まない金額で、前年を上回る42億円に拡大させることを明らかにした。18年度の設備投資実績は35億3,200万円を超過する見込みで、主な投資としては、電線各機能強化で6

億円、フィルム高機能化、基盤強化対応に10億円、木津川地区環境整備に4億円、新規事業開発(成長追求事業)に3億円、電子材料周辺分野への投資枠として10億円をそれぞれ見込み。同社は収益基盤の強化を図る一方、新規成長事業への投資も進めの意向を示した。

タツタ電線は2011年9年度の設備投資について、全社留保枠支出を含まない金額で、前年を上回る42億円に拡大させることを明らかにした。18年度の設備投資実績は35億3,200万円を超過する見込みで、主な投資としては、電線各機能強化で6

億円、フィルム高機能化、基盤強化対応に10億円、木津川地区環境整備に4億円、新規事業開発(成長追求事業)に3億円、電子材料周辺分野への投資枠として10億円をそれぞれ見込み。同社は収益基盤の強化を図る一方、新規成長事業への投資も進めの意向を示した。